

西播磨地域夢会議の概要

日 時：平成23年3月19日（土）12:40～15:30

場 所：スピカホール（佐用町）

参加人数：約140名

主 催：西播磨地域ビジョン委員会・西播磨県民局

1．開催趣旨

西播磨を若者が住みたい、住み続けたいと思えるまちにしていきたい。西播磨の豊かな自然や人間関係を求めて、都会からも多くの人々が訪れ、移り住んでほしい。そんな魅力ある西播磨にしていくために何ができるかを考えます。

高校生など幅広い年齢層からの参加により、西播磨地域の将来を考え、これからの地域づくりにつなげていくとともに、現在見直しを行っている「改訂版西播磨地域ビジョン」に反映するため「西播磨地域夢会議」を開催しました。

2．テーマ

「若者が住みたいまち」～このまちで何ができるか、何をしたいか～

3．プログラム

(1)【第1部】プレゼンテーション

改訂版「西播磨地域ビジョン」原案について

西播磨地域ビジョン委員会 委員長 山本 建志

(2)【第2部】ワークショップ（グループ討議）

- ・『人の輪社会・西播磨』
- ・『安心安全社会・西播磨』
- ・『環境王国西播磨』
- ・『きらきら西播磨』

(3) 交流会（休憩）

(4)【第3部】全体討論

- ・ワークショップの結果発表
- ・参加者全員による意見交換
- ・副知事総括コメント



4.【第1部】プレゼンテーション（要旨）

西播磨地域ビジョンについて、これまでのビジョンの実現に向けた活動の取組状況や、人口減少、少子・高齢化などの時代潮流の変化を踏まえ、地域の将来像を点検・見直すことにより、改訂版「西播磨地域ビジョン」として県民の取組方向をまとめる。

改訂版「西播磨地域ビジョン」原案の概要と、原案が提示されるまでの経緯を説明。

<原案の主なポイント>

(1) ビジョンの実現に向けた活動等のふりかえり

ビジョン策定以降の地域の変化、地域の特徴的な動きを記述

地域像の達成状況、評価を記述

アンケートや地域夢会議から地域の新たな課題等を抽出

(2) ビジョンの基本姿勢の見直し

「～光と水と緑でつなぐ - 元気・西播磨～」

(3) ビジョンの夢・目標像の見直し

第1の夢 人の輪社会

第2の夢 安心安全社会

第3の夢 環境王国

第4の夢 きらきら西播磨

(4) 新たな地域像を実現するための重点プログラム

西播磨重点アクション項目

シンボルプロジェクト

5.【第2部】ワークショップ（要旨）

改訂版「西播磨地域ビジョン」原案にある4つの夢に基づき、各テーブルでワークショップを行い第3部全体討論で意見交換を行う。参加者は討論ポイントに沿った意見を自由にフセンに記入し、グループの意見が出そろった時点で解決策や行動案を討議する。

検討の視点 若者が住みたいまち、帰りたくなるまちとは
我がまちの良いところ（誇りや自慢）と変えていきたいところ
若者と年配者の役割
30年後の西播磨

ワークショップテーマ	
人の輪社会	(例) 子育て、働き方、地域活動
安心安全社会	(例) ユニバーサル社会、医療、防災
環境王国	(例) 循環型社会、自然環境、農林水産業
きらきら西播磨	(例) 地域資源、交流、産業、文化

項目	意見
人の輪社会	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親と経験者とのつながりの場を持っていないといけない ・高齢者福祉より若い人が子育てしやすいように考えよう ・社協が推進しているふれあいサロンの活動に自治会や自治体の協力が必要 ・町に働き口（大きな会社）が少ないので若者が出てしまう ・様々な地域から転住してきた住民同士の心のつながりを日常的にどう構築していくかが課題 ・若者と年配者がふれあえる授業をしてほしい。 ・他県との交流を進めて若者の出会いの場を設ける。
安心安全社会	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所の見直し、行政との連携強化、消防団と自治会との連携。 ・人への思いやりの心が大切、小さいことから始めていく。 ・月に一度でもよいから地区全体の会合ができるようになったらよい。 ・市役所・公民館などに非常食などを蓄えておく ・高齢者（一人住まい）の掌握。地域のつながりが大切。 ・地域の若者が望んでいることをあらためて聞いてあげる。 ・近くに病院や買い物ができる場所があること、職業が安定していることが大事。
環境王国	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のメンバー参加による環境改善研修会を实践する。 ・月ごと、年ごと地区内クリーンデイを設定し美化に取り組む。（統一グリーンデイ） ・農家、漁師に対して特別な手当を出す ・ディーゼル車の規制 ・農作物が販売できる体制があれば若者が田舎に入りやすい。 ・森林等の仕事がある住環境を整備する。 ・おいしい食べ物がある、名産（カキ、塩など）を生かす
きらきら西播磨	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先がない状況。仕事があることが一番。 ・にぎわいづくりに地域のイベントはかかせない。 ・でっかいショッピングモールを！ ・観光地の保護を進めて残す ・国際交流を通して他の文化や食文化を取り入れる ・都会より田舎のほうが土地が安い、安い県住をつくる ・地域限定のマスコットキャラを増やす ・バスや鉄道の利用促進

6.【第3部】全体討論（要旨）

今回は、今後西播磨の将来を担うであろう高校生のみなさん、地元佐用高校をはじめ、相生高校、赤穂高校、上郡高校、相生産業高校の皆さんにご参加いただきました。

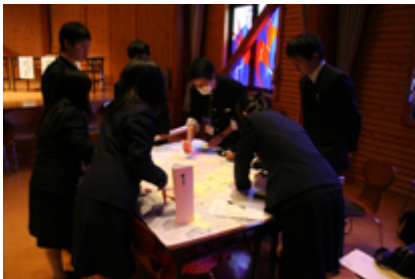
第3部全体討論では第2部で討論いただいた内容を、高校生を含めた各テーブルから発表してもらい、会場との意見交換や専門委員からご意見を伺いました。

（1）発表要旨

【相生高校】

相生高校は、「若者が住みたい、帰りたいと思うまちづくり」のためにどのようなことをするべきかに重点をおいて、交流、教育、食、自然、交通、施設、地域活性化の分野にわけてまとめました。それぞれの意見について詳しく説明します。

まず、交流の点では普段からの挨拶や田舎ならではの近所づきあいを大切に、地域行事などの伝統文化を若者に伝えることで若者と高齢者の交流を活発にすることができると思います。次に教育の面では、学校の先生と保護者の連携を強め、子ども達への地域教育を進めることで、地域愛や市民の意識を高めることができると思います。次に、食については、特産物を地域に広めることによって地産地消を推進し、そこからご当地グルメなどが生まれ活性化につながると思います。次に、自然については、豊かな自然環境資源を利用し、自然とのふれあいを進めるだけでなく、自然を活かした農業体験などで町おこしにつなげることができればと思います。次は交通、交通の便を発達させること



によって、これまでに挙げた交流や自然の活用がさらに進むと思います。次に施設、施設についてはテーマパークや娯楽施設が充実しているまちにという意見の他に、医療施設や福祉施設が充実していることなどが挙がりました。次に地域活性化としてハリウッド映画や大河ドラマのロケ地に使う、忠臣蔵をもっと推すという意見がでました。

それぞれの分野について説明しましたが、全体を通して言えることは新しいものを生み出すのではなく、今私たちのまわりにあるものを活かすことで西播磨独自の地域活性化につながるのではないかと思います。そのためにはまちとまちとの交流や身近な人たちとの交流が大事ではないでしょうか。

【赤穂高校】

赤穂高校は若者が住みたいまちをつくるためには、原因になっているものを考えなければならぬと思います、今から30年後の西播磨はどうなっているのかということを考えました。話し合った意見は大きく分けて4つです。

1つは少子高齢化や市や町の過疎化が進み人口が減るという問題。2つめは市が合併せざるをえないような状況になったり、市の借金が多くなったり、市の政治に対する関心が少なくなるという問題。

3つめは農業、特産品などの生産力が低下することの問題です。4つめは良い意見として、自然災害に対する備えができていないという意見がありました。

少子高齢化が進むということに対しては子育てがしやすい街にするため、ショッピングモールやレジャー施設をつくり、大人も子供も楽しめるように街をもっと活性化させる。また、街をバリアフリー化することで誰もが住みやすいまちをつくるという解決策が挙がりました。市政に関するものでは、小中高の生徒が市の議会へ参加し、議員と一緒に会議をするという意見がありました。自分たちが関わった条例があることで市への関心が上がり、自分たちが住みやすいまちにするための条例をつくることのできる、若者が将来もそのまちに住むことになるのではないかと思います。特産品に対しては、やはり農業を推進することが挙げられます。農家や漁業関係者と市との連携を強くすることで給料が少ない場合には手当を出すなどの対策がとれるようにすればいいのではないかと思います。自然災害に対する対策ができていないという肯定的な意見は、今回東北であった大きな地震から関心が高まるためという意見でした。

【上郡高校】

上郡高校のテーマは「若者が帰ってきたいまち」としました。これは田舎を都会にするのではなく、田舎の良さを残して都会に行きやすくするという考えです。そのためには交通機関を整える必要があります。そのことによって田舎から都会に行きやすく、都会からも田舎に行きやすくしたいと思います。田舎の人は都会が楽しいので行きたくありませんが、都会の人が田舎に行きたくなるように、例えば田舎にしかない自然を使った農業、りんご狩りや観光名所などを利用して都会から人を田舎に呼ぶことが必要です。

また、田舎は都会に比べて土地が安いと思うので、家を増やしていくことによって都会からの人を呼びやすくなると思います。子育ての面に関しても幼稚園や保育園を増やしていくことで同様に人を呼びやすくなるのではないかなと思います。人が集まることで、交通の便がよくなり、電車も安くなると思います。そうするとさらに人が増えて、という良いサイクルになると思います。今回は若者を中心としたテーマでしたが、一方で若者よりも何倍も生きている年寄りの方々の方が今の日本には大事なんじゃないかなと思いました。

【佐用高校】

佐用高校はきらきら西播磨についてワークショップを行いました。始めに残したいものと変えたいものを出し合いました。次にそれをまとめてタイトルを付けました。残したいものは自然、伝統、コミュニケーション、名所の4つ、変えたいものは社会、地域、イベント、その他の4つになりました。そして、残したり変えたりするために



自分たちに何ができるのかを考えました。全体的に言えることは、自分たちにできることから取り組んで行かなければならないということです。

討論した中で出た意見を詳しく説明します。まず、残したいもの。伝統や名所について、佐用は宿場街など古い町並みも多く名所と伝統が一部重なっているところがあります。挨拶などのコミュニケーションというのも佐用の田舎町だからこそ大切であると思います。特に佐用町は自然豊かな街なので自然も残していきたいと考えました。逆に変えていきたいものは、佐用町は過疎化が進みつつあるので、イベントなどをやって人をもっと若い人を集めていきたいと思います。そのためには若い人が佐用町や西播磨に行きたいと思えるような社会づくりや地域づくりが必要で、まずは交通の整備などを進めていきたいと思いました。

【相生産業高校】

相生産業高校は安心安全な社会を作ることが、若者が住みやすいまちにつながるのではないかと思います。多くの意見を出し合いました。

まず、バリアフリーについてです。これからは高齢者が増えるということは間違いないので、すべての人々が住みやすいバリアフリーの環境を整えることが重要だと考えました。次に交通についてです。駐車場、駐輪場が少ないために路上駐車などが増えています。そこで交通の便を良くするためにも駐車場、駐輪場を増やした方がよいと考えました。最後に医療についてです。医療施設が充実している所もあれば、そうでない所もあるというのが現実です。そこで医療施設を増やすことを最優先し、派遣医療などのサービスの提供やデイサービスセンターなどの施設が増えていけばいいなと思いました。

安心して子育てができる環境を整えることによって若い世代の里帰りにつながるのではないかと思います。そういったことから妊婦の方が安心して出産できる施設を増やし、出産後のケアができる地域の環境づくりが大切になるのではないかと思います。

【人の輪社会・西播磨】

人の輪社会のテーブルでは魅力ある明るいまち、若者が住めるまちに重点を置いて話し合いました。地域間交流、3世代交流など地域の中で若者も一緒に参加できる行事を開催することが必要ではないかと考えました。加えて、子育て支援環境、高校生の発表にもありましたが、保育園・幼稚園の充実、高齢者が小さい子を見るといった支援環境、それが今後ますます大事になってくるのではないのでしょうか。

また、若者が働ける環境、働きやすい環境を整えることも必要です。それには地域の中で企業を誘致するとか、地場産業を取り入れ、地域が発展するような環境をもっともっと作らなければならなりません。

それから地域の資源、伝統行事を大事にして、若者にも伝え、みんなで守り伝えていく環境も作っていき、みんなが魅力ある明るい街にしていきたいという思いを育てる必要があります。そのためには、まず、皆さんの思いやりの心、気持ちを大事にしながら人と人がつながる人の輪社会を作っていかなければならないと思いました。

【安心安全社会・西播磨】

安心安全社会のテーブルでは、「思いやりの飛び交うまち」をメインテーマに掲げました。そして暮らしやすいまち、災害に強いまち、まちづくりに強いまちの3つに絞ってまとめました。

まず、暮らしやすいまちとは、近所に病院や買い物をする場所があることが挙げられます。もちろん職業があることも重要ですが、地域の良いところ直したいところを見つけていければ暮らしやすいまちがわかるのではないのでしょうか。そして災害に強いまちは、自分たちでできることと組織（行政、自治会）と連携してやらなければならないことの2つに分けて考えました。自分たちでできることは避難場所を家族が知っているか、各家庭で災害対策ができているか、火災報知器は設置されているか、災害についてどのくらい知っているのかなど、各自でできることをやる。組織でできることは、自主防災組織の活性化、情報伝達手段の向上、ハザードマップの作成などが挙げられます。ハザードマップについては地震などの災害と水害をわけるべきではないのかという意見もありました。これは先の東北大震災で体育館に避難したにも関わらず亡くなったということもありますので、同じ避難場所でも設置場所を考えてつくるべきであると考えます。まちづくりについては、つながりが強いまち、支え合えるまち、コミュニケーションの取れたまちにしていくことが大切で、それには思いやりの心を持ち小さな事から始めることが大切である。

【環境王国・西播磨】

環境王国のテーブルでは非常に活発な意見交換が行われましたが、特に農林業、環境改善、日常生活について改善すべき点を話し合いました。まず、農林業について、鳥獣の被害が多くでているのでそれへの対応、また、農産物を作ってもそれを流通させる場所がないということ。場所によっては直売所や朝市などで並びますが、流通の流れをもう少し見直すことが必要であると思います。3ちゃん農業や関係者への住居支援など、もう少し農林業に対する環境を整えなければなりません。

環境改善についてですが、自然環境では海や川があります。意見でも目立ってしまし



たが、川や海では楽しく遊ぶだけでなく、学ぶこともできます。例えば赤穂や相生ではアマモを育て、種を取って小学校で成長させ、海に放流する取り組みをされていますが、このような形で海を改善する方法もある。また、EM（有用微生物群）の団子（赤穂は1万個、相生は6千個）を作って水質改善に努めています。改善されているかどうかは水質調査をしなければなりません、現在のところは継続して行っていただきたい。

最後に生活環境については、とにかく自分たちの街を美しくしようではないかとの思いをもって取り組む必要があります。個人でやってもいいし、あるいは清掃の日を決めてやってもいいので、それが地区を挙げての活動として活発になることを期待しています。

【きらきら西播磨】

きらきら西播磨のテーブルでは「若者が住みたいまち」をテーマに、特に帰りたくなるまちについて議論しました。やはり、若い人たちが集まる要素が少ないので、まちづくりにおいては、地域医療の充実など子育てのしやすいまちづくり、犯罪のない安全なまちづくり、映画館がほしいなどの意見がでました。特に産婦人科不足が問題となっているのでこちらは早急に確保する必要があります。

また、わがまちの良いところ、変えていきたいところを挙げ地域についても考えました。良いところでは、自然が美しいまち、災害がない風土、お米がおいしい、都会にない人情があるなどの意見がでました。変えていきたいところでは、村意識、閉鎖的な考え方、よそから気楽に人が入れる受け入れ態勢などの意見がでました。最後に、若者との共生とか世代交代の観点から、若者達を上手く引っ張っていくリーダーづくりが必要だと思います。若者と年配の役割、若者達の考えを受け入れ、人と人とが点でもいいのでつながる環境づくりをリーダーに担っていただきたい。技術や伝統の継承についても同様の環境を作っていかなければならないと思います。

(2) 意見交換

【田端専門委員】

手を挙げると大変かもしれませんが、高校生の皆さんに伺います。今住んでいる町を高校卒業したら出ていきたいという人(無し) 残りたいという人(数人) 大学など少し出るけどまた戻ってきたい人(多数) こういう結果になると思っていましたが、なかなか故郷や今まで住んでいるところを捨てるのは難しいです。とはいえ自分の可能性にチャレンジしてみたい、そのためにはこの地域以外のことを知ってみたい。このような思いは若い人には共通してあるのではないのでしょうか。

今日も発表を聞いている中で、いいキーワードがいくつもでていました。特に、何を变えたいのかというテーマに対して、社会を変えたいという意見があったのは驚きました。発表にもでてきましたが、震災のようにまさに社会変動を起こすような未曾有の状態の中で、若い人たちが自分たちで社会を変えていきたいという意識を持っている事実はたいへん重いことだと感じました。今日は県会議員や各市町の長の方もみえています。ここにいる高校生の方々は20才にならないと選べません。来賓のみなさんには18才未満の方々がどういった思いでここにいるのか聞いていただいて、いわば投票無き声として活かしていただきたい。

また、若者ではなく高齢者を考えてくださいという声もありました。もっと若者をなんとかしてくださいという意見がでるかなと思っていましたので驚きましたが、それだけ高い意識をもった若者がいるのはこの地域の大きな宝だと思います。

【熊谷コーディネーター】

高校生から選挙権はないですが議会に参加して条例をつくりたいという意見もありました。現行の制度では無理ですが、各市町の方もいらっしゃいますのでこういった声を反映できるような方法があるのでは無いでしょうか。若者より高齢者を考えるという意見もありましたが、ビジョン委員の方ご意見はいかがでしょう。

【ビジョン委員】

今回高校生にたくさん参加していただいて圧倒されています。高校生たちが短時間の会議を短時間でまとめそれをまた短時間で発表する。そのすばらしさに若者でないと感じないなと感じました。私たちのエネルギーは働き、子育てをしてきましたので、これからはいたわられる立場に入っていき、そういう時代に来ていますので、やはり20年後30年後は若者達に頑張りますと手を挙げていただいて、全員が赤穂や上郡なりに戻ってきたい、自分たちがこの地域を活発にしていきたい、そういう風に思っていたきたいなと感じました。

【坂本専門委員】

食の分野が専門ですので、食の関連でコメントさせていただきます。以前西播磨のある中学校で給食に関するアンケート調査が行われたのですが、その中学生は味が薄いとかデザートが欲しいとか若者が好むメニューにしてほしいという不満を少なからず持っていました。ただそれだけではなく、その地域では地産地消を進めていたのですが、地産地消に誇りをもち、食べ物に感謝をし、健康な食生活を送れているという自負をもっていることが調査からわかりました。

結局このような生活ができるのが西播磨の素晴らしさではないかなと強く感じました。自然は驚異でもありますが、恵みを与えてくれるのも自然です。人間も自然の中の一つなので、その中で共生することができる。そして皆さんが発表された思いやりの心が加われば素晴らしい土地ではないでしょうか。

【ビジョン委員】

若い方からもっと高齢者を大事にということで意見をいただきありがとうございます。日々の活動の中で思っているのですが、定年退職後地域へ帰ってきた、俗に言う団塊の世代がまさにそうですが、そういう方に今日の若い方の意見を聞いていただき、伝えて、地域で頑張してほしい、と呼び水にしていただければと思います。



【高校生】

若者の意見を聞いて大人の人たちが何かしようとするのもいいが、これまで大人の人が頑張ってきているのでこれからは私たちが頑張らなければならないなと思いました。

【谷川専門委員】

熱気溢れる討論、高校生の発表を聞かせていただき幸せに思います。さまざまな議論がありましたが、いろいろなキーワードがでてきた中でも5つ心に残っています。一つはコミュニケーションで、これはお互いが支え合うこともコミュニケーションだと思います。レイアウト変更においてもお手すきの1人1人が誰かの指示があるわけでもなく配置をされていました。2つめは継承、新しいものをつくるより今あるものを活かしていこうということですが、まさに思いやりの心がなければできないと思います。3つめはネットワーク、顔と名前がはっきりと一致したわけではないと思いますが、この会議で少なからずつながりが生まれました。高校生のみなさんにも他の高校とのつながりを大切にしていきたいと思います。4つめは改善、社会を変えていきたい、それは環境を変えるということであり、その中には人間も含まれます。自然ばかりでなく人間自身も変わっていかねばなりません。5つめは居場所、リーダーの存在の必要性について議論されていたグループもありましたが、自分はそこにいていいのか、その空間で思いの丈を伝えられる居場所づくりも大切です。

若者とはなんのでしょうか？80才は若者ではないのでしょうか？私は、夢を持っている限りは若者であると思います。

【熊谷コーディネーター】

夢を持っている人は全て若者である。今日の夢会議はそのような思いで進行できればと思っています。震災の話題も多くでておりますが、リーフレットに兵庫県のマスコットはボタンが載っています。これはフェニックスを表しており、苦難からの再生、再び立ち上がろうとする意味を持っています、このような思いも兵庫県から東北地方に飛ばしていきたいと思っています。

【一般参加者】

相生から鳥取に帰る際に、道すがら道の駅には安くて生産者の名前がわかるおいしい野菜がたくさん並んでいます。まちの自慢がありましたが、これは西播磨の自慢のひとつではないかと思っています。同級生が東京ではおいしい野菜が食べられないと言っていました。最近は食べられる所も増えてきているのではないかと思いますが、こういった西播磨の自慢を都会にも届けることができれば、また少し変わっていけるのかなと思います。

(3) 副知事総括コメント

今日は本当に良い意見を聞かせていただきありがとうございます。時間的に厳しい制約がありましたが、皆さん要領よく発表していただいたので、皆さんがおっしゃりたいことはしっかりと受け止められたと思います。冒頭、佐用町長からもありましたが東北関東大震災の関係、過去に被災地であった兵庫、佐用の皆さんが何か自分にできるのではないかとお思いの方たくさんいらっしゃると思います。ただ、ボランティア活動などはすぐ現地に入って行くことは難しく、状況も整っていません。県としましても現場の状況をしっかりと把握して、県民の皆さんに手伝ってほしい、これは助けていただけるとはならないということがありましたら、できるだけ早くお知らせをしたいと思います。その節は是非ご協力をお願いします。あわせて、災害の被害を受けなかった関西から何



をしなければいけないかを考える必要もあります。被災地が大変な状況にあるだけにしっかりと自分たちのやるべきことをやる。現在の経済活動をしっかり支えて社会を維持し、子ども達の教育などできることをしっかりとやっていく。そういった日々の行動が本当の日本の支えになるはずで、それも併せてお願いをしたいと思います。

また、高校生の皆さんが大勢しかも元気よく発言をしていただいたことは強く印象に残っています。30年後のビジョンですので高校生のみなさんが社会の主演になっているわけです。おそらく今回は高校生の目線で発言されていると思いますが、皆さんの30年後は社会の中核として、地元に住んで仕事をしているか、あるいは東京や大阪など別のところで仕事をしているかは別として、自分たちの子どもを育て、その子どもはどのようにご飯を食べていくのだろうと心配をするような年代になっていると思います。

30年後を見るということはそこに責任を持つことでもあります。この西播磨地域がどうなっていくってほしいか、決して夢物語ではなく自分が責任をもつ一つの社会のイメージ、自分がそのころ何をしているのかをしっかりと考えていただきたい。発表の中には自分たちが市議会に加わって条例をつくるという意見もありましたが、それも一つのイメージであります。あるいは30年後はいきなりくるわけではありませんので、それまでは1歩1歩社会が進んでいきます。今、地域の中にお年寄りの人たちを大事にしなければならないという皆さんの思いなどが積み重なった結果に30年後がありますので、そういう思いは是非持ち続けていただきたいと思います。

もう一つ心に残りましたのが、西播磨に今あるもの、良いものに注目すべきだという発言がありました。最後に会場から私がまさに言いたいことを発表されたのですが、何故かそれまでの発表の中に農業、林業とか飯の糧の話がでてこなかった。自然環境が豊かだというよりは、私などから見ると西播磨地域の良いものというのは林業であり農業であり林産物であり農産物であります。それらは少なくとも今は産業として成り立って

います。高校生のお父さんお母さんあるいはおじいさんおばあさんはそれをしっかり産業として支えている。これは何にも代え難い良いものじゃないかと思えます。

例えば30年後の地球の姿を考えてみると世界的に穀物は足りているでしょうか。地球環境、温暖化や資源はどうなっているのか、本当に人間が暮らせる場所は世界中の中で今より増えているのか、減っているのか30年後の地球はどうなっているかわかりません。そういうことを考えると、しっかりした林業、しっかりした農業が支えられている地域というのは世界の中でも日本の中でもものすごく貴重な場所になっている可能性があります。それは10年後に壊れてしまうのではないか、あるいは15年後は成り立たなくなっているのではないかという風に思われるかもしれません。しかし、地球規模で30年後を考えるとものすごく大事な産業になっているのではないかと思えます。そういうようなものの見方と申しますが、まさに高校生で30年後に社会の責任をとるべき立場にある人にしっかり議論をつけていただきたいと感じたところです。

いずれにしても今回の発表の中で皆さんは、まさに地に足を着け地域をよく見たうえで発言をしていただきました。これは地域づくりにおいてもものすごく重要なことですし、今後の皆さんの活動にも大きな役に立つのではないかと考えています。是非そういうものの上にとって西播磨のすばらしいビジョンを作りあげていただきたいと思えます。

7. 地域夢会議を終えて

【閉会挨拶より～抜粋】

みなさま本日は西播磨地域夢会議に多数ご参加いただきましてありがとうございます。お陰様で活発な意見交換の基に無事終了を迎えることができました。これからの西播磨地域の活性化には若い世代、高齢者色々ありますが、世代間で途切れなくつながっていくということが一番大事なのではないかと思えます。今日出していただいた意見を改訂版「西播磨地域ビジョン」にとりいれながら、すべての人が住みやすいまちづくりができればと思っています。

また、地域づくりを考えるときに、すこし視野を広げまして、今回は冒頭にもありましたが東北、東関東の方で大変な震災がありましたので、それぞれのみなさんができることにも思いをはせながら地域でも活動していただければと思います。